

バイオスター ヒューズ交換方法

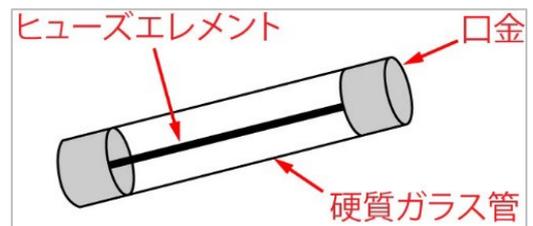
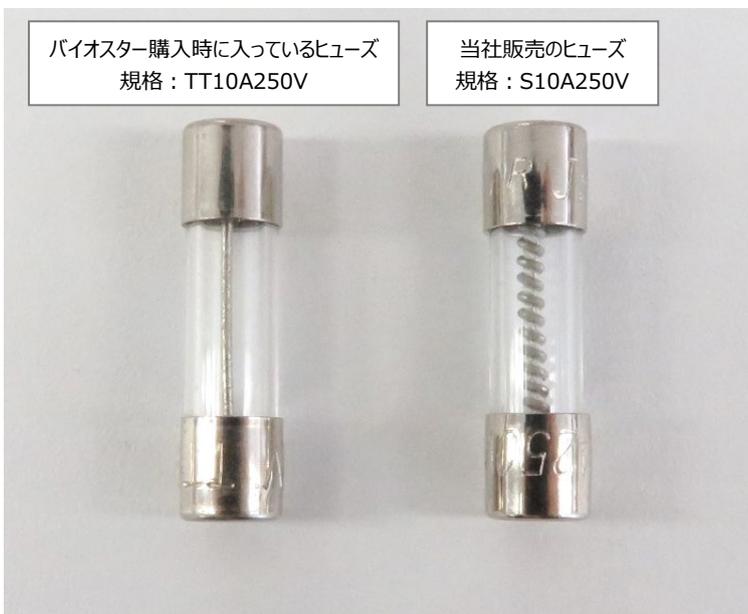
バイオスターの電源が入らなくなってきたときは、ヒューズ切れを起こしている可能性があります。

まずは以下の手順に沿って、ヒューズの確認と交換をお願いいたします。（* 後方ページには応急処置の方法あり）

【ヒューズについて】

ヒューズの断線は、基本的には内部のヒューズエレメント(ワイヤー状の部位)が熔断することにより発生しますが、ヒューズエレメントの熔断箇所が口金(両サイドの金属)に隠れて見えないケースがあります。

<正常なヒューズの写真>



※ヒューズの規格の頭文字「TT」と「S」について

TT はタイムラグ、S はスローブロータイプという意味です。どちらのヒューズも入電時などの瞬間的な過電流にはよく耐え、器体にダメージを与えるような過電流を受け続けた場合には、普通のヒューズと同様に切れるという特性をもっています。

<熔断したヒューズの写真>

ガラス管内が黒ずんでいる／黄色くなっている状態、もしくは外観からは特に異常がない場合でも切れている可能性があります。



【バイオスター6型 SN:60036以降 ～ バイオスター7型】

※必ず電源コードを抜いてから、以下の作業を行ってください。

バイオスター背面に2か所ヒューズボックスがあります。



大きめのマイナスドライバーで、軽く本体側（奥側）に押し込みながら、矢印の方向に回します。

※横幅が小さいドライバーを使うとマイナスの穴が削れてしまうことがあります



ヒューズボックスが取り出せたら、ヒューズを交換します。（ヒューズの規格等についてはマニュアル後方を参照ください）



戻すときは上記と逆のステップ(ヒューズボックスを軽く押し込みながら矢印と反対方向に回す)で取り付けてください。

この時、軽く止まるまで回していただければ問題ありませんので、強く締めすぎないようにしてください。

【バイオスター5型 ~ バイオスター6型 SN:60035 まで】

バイオスター背面 電源コード差込口の直下にヒューズボックスがあります。



※必ず電源コードを抜いてから、以下の作業を行ってください。

ヒューズボックス上部に付いているツメを強く押し下げながら、手前に引き抜いてください。

指では硬くて上手く押し下げられない場合は、ラジオペンチやホウプライヤーで掴んでゆっくりと引いてください。



※ヒューズが手前に抜けず本体側に残った場合は、ヒューズボックスとヒューズが焼き付いている可能性が高いため、修理が必要になります。

続いて、ヒューズボックスからヒューズを抜いて交換します。

その後、ヒューズボックスを「カチッ」というまでソケットに押し込んで交換完了です。



【交換用ヒューズ】

交換の際は、お出入りのお取扱店様に下記の商品をご注文ください。

ヒューズが切れた時のために、いくつか在庫しておくことをおすすめします。

- 商品番号：3100941
- 商品名：スローブローヒューズ S10A バイオスターV-VII共用（1本）
- 規格：S10A250V



※バイオスター購入時についているヒューズの規格はタイムラグヒューズ（TT10A250V）です。

各自ご用意いただく際は、切れ辛い規格の10Aヒューズ（スローブロー、タイムラグタイプ）を選定ください。

※ヒューズを2本交換しても電源が入らない場合は他の箇所の故障になります。

その際はお出入りのお取扱店様へ修理をご依頼ください。

次項：アルミホイルを用いた応急処置について

【特別編：応急処置について】

お急ぎの際は、下記の処置により数日程度であれば使用可能になります。

また、ヒューズ切れか、器械自体の故障かどうかを判断する方法としても有効です。 ※必ず一本ずつお試しください

まず、ヒューズとアルミホイルを用意し、ヒューズにぴったりと沿うように2周ほど巻き付けます。



アルミホイルが破れないようヒューズボックスにセッティングし、本体に戻します。



アルミホイルを伝って電気が流れるようになり、一時的にバイオスターが使用可能になります。

ただし、本方法は応急処置ですので、必ず新しいヒューズをご用意ください。

株式会社 JM Ortho

第2版 2023.4.10 作成